

# 下関スタンダード

～授業を振り返る～



☆ CHANCE CHALLENGE CREATE ☆

～ふるさと下関に誇りと愛情 未来を拓く 一人ひとりの学び～

下関市教育委員会  
令和8年4月 更新

## I 何ができるようになるか



何ができるようになるか

⇒ スタートは単元づくり

1コマ1コマの授業づくりから、  
単元全体を視野に入れた授業づくりへ！

そのために・・・

### ◎ 目標を把握

- ・ 学習指導要領での単元（題材）の位置付け
- ・ 教科の目標 ・ 教科・学年で育成する資質・能力
- ・ 教科等の特質に応じた見方・考え方
- ・ 評価観点ごとの目標設定・単元（題材）の評価規準

### ◎ 子供たちの実態を把握 ⇒ 実態を踏まえた単元構成や授業の展開を

#### 子供たちの生活の実態を把握

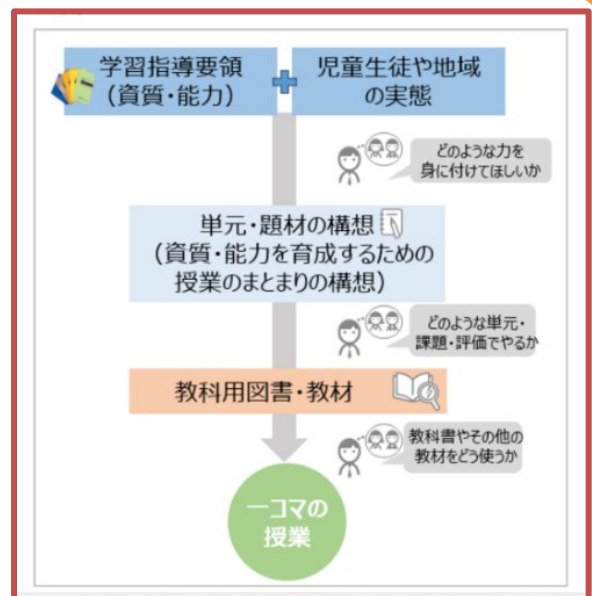
- 子供の実態を項目別に整理
  - ・ 得意、不得意 ・ 集中できる場面 など
- 一人ひとりや学級の実態を把握
  - ・ 表情や会話 ・ 教育相談週間 ・ 生活アンケート
  - ・ 教職員・保護者との定期的な情報交換 など

#### 子供たちの学力の実態を把握

- 学力分析支援ツールの活用
  - ・ 誤答分析で、成果や課題の把握
  - ・ 学校全体での共有
  - ・ 具体的な取組へとつなげる

#### 児童生徒質問調査の結果を活用

- ・ 学習意欲の観点から ・ 生活習慣の観点から ・ 学習習慣の観点から ・ 学校の重点取組の観点から



出典：文部科学省「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のためのサポートマガジン みるみる」

## II 何を学ぶか



**何を学ぶか** ⇒ **学習課題（めあて）を明確に！**

★目的意識や学習意欲を喚起するめあてを設定しよう！

学習と生活につながりがあるめあてを工夫する。

子供が見通しをもって学習に取り組めるように、全体で共有する場をつくる。

めあてが達成された具体的な子供の姿を明確にもつ。

めあてについて振り返る場をつくる。



## III どのように学ぶか



**どのように学ぶか** ⇒ **かかわり合い（対話）を生む発問を**

★まずは・・・支持的風土を育もう！

- ①ほめる：「短く力強く！」
- ②しかる：「短くしかってじっくり諭す！」
- ③認める：「いてくれてありがとう！」の気持ちをもつ

★聴く力をつけよう！

聴く力は、学習の基盤です！

- ・話し手の立場に立って聴く力
- ・最後まで集中して聴く力
- ・自分の考えと比較しながら聴き、考えを深めたり広げたりする力 など

★効果的な発問は・・・

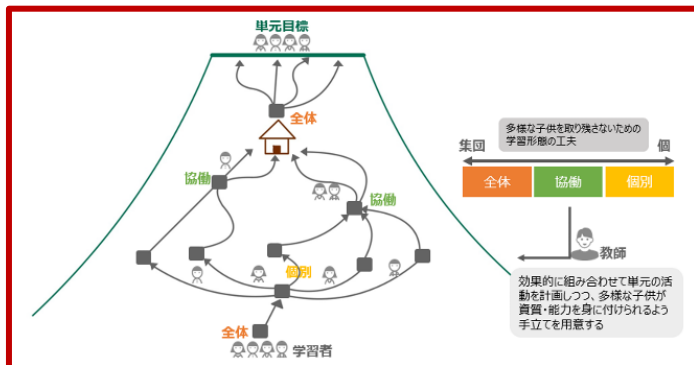
- ①端的でわかりやすい
- ②計画的
- ③興味・意欲を引き出す
- ④子供の実態に合っている
- ⑤タイミングがよい

★対話を充実させるために・・・

- 「何を？誰に？誰と？何のために？」を明確に  
→子供が挑戦したくなる、必要感のある課題設定を工夫しましょう。
- 表現の内容や方法を振り返る場の設定 など



⇒ **どのように学ぶか**  
**個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を**



# ★ 「振り返り」で、深い学びの実現を

学んだことを生かして何が出来る？

今、やっていることが、次にどうつながる？



学びの見通し・イメージ化



新しい学びへ



振り返り

身についた技能を確認！  
→今後の見通しへ  
(新たな疑問)

## Q 振り返りって、何のためにするの？



一言でいうと・・・『主体的・対話的で深い学び』の実現のためです！  
子供たちが授業中に得たたくさんの学び・・・それらは、頭の中にはばばらに散らばっている状態です。それらをつなぎ合わせて、「深い学び」にしていく・・・その役割を果たすのが「振り返り」です。

また、子供たちは、振り返りをするすることで、自らの学習を調整していき、「学び手」となっていきます。先生方の授業改善にも生かしてください。学習状況の把握・次時の導入に取り入れる・・・などの使い方も工夫されてください。

## Q どんな振り返りがいいのかなあ？

やはり一番は「書く」振り返りです。

音（対話）で学びを広げて、最後は文字（書くこと）で学びを振り返る・・・そんな授業イメージを基本にしてみてください。

キーワードは・・・

### 「音で広げて文字で刻む」「ちょっと長めの振り返り」

ちなみに、ちょっと長めの目安として「中学年 100文字 高学年 150文字 中学生 200文字」くらいを想定しています。もちろん、実態に応じて考えてみてください。また、「共有」で良さを広げることで、全体のレベルアップが期待できます！



ICTの活用もいいですね！「振り返り」自体が目的になってしまわないように・・・発達段階や実態に応じて、いろいろな工夫をしながら、「振り返り」で深い学びを実現させていきましょう！

## Q 何を振り返ればいいのか？



「学習内容」だけでなく「学び方」の振り返りを意識してみてください。  
視点を示す・型を提示する・書き出しを提示するなどしてみるのもおすすめです。

## Q 毎時間、振り返りってしないといけないの？

こつこつ積み重ねていくことで、振り返りにも慣れていきます。すると、振り返りをするのが当たり前になっていきますよ～。

ただ、教科の特性や学習内容によっては、振り返りの時間をとることが難しいこともありますよね。例えば、単元の中盤・終末にはしっかり振り返りの時間をとるなど、軽重をつけることもおすすめです！・・・そのためにも、振り返りの計画も含めた「単元づくり」を大切にしてください。





日々の

# 授業を振りカエル ★チェックシート★



定期的に、ご自身の授業を振り返ってみましょう。

【評価】 4…できている 3…概ねできている 2…あまりできていない 1…できていない

( )月( )日

		チェック
に何ができるようになるか	①  コマ コマの授業だけでなく、単元全体を視野に入れた授業づくりをしていますか。	4 3 2 1
	② 目標・子供たちの生活や学力の実態を把握して授業に取り組んでいますか。	4 3 2 1
何を学ぶか	③ 目的意識や学習意欲を喚起する学習課題（めあて）を設定していますか。	4 3 2 1
	④ 子供が見通しをもって取り組めるよう、学習課題（めあて）を共有していますか。	4 3 2 1
	⑤ 学習課題（めあて）が達成された具体的な子供の姿を明確にしていますか。	4 3 2 1
どの学びようか	⑥ 支持的風土を育む授業をしていますか。	4 3 2 1
	⑦ 対話の場面が課題解決につながっていますか。	4 3 2 1
	⑧ 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を意識した授業づくりをしていますか。	4 3 2 1
振り返り	⑨ 自己の学習を振り返らせ、深い学び、次の新しい学びにつながるようにしていますか。	4 3 2 1
		4 3 2 1
		4 3 2 1

自己の視点、学校や学年、教科等で設定した視点等を入れてご利用ください。

メモ



子供たちと一緒に、楽しみながら、わくわくする授業をつくっていきましょう！